

メヒシバ (雌日芝)

名前の意味：オヒシバより姿が優しい日向に生える芝の意味。「メ」という言葉は、「オ」と対比して、姿が優しいものに使う。

分類：単子葉類、イネ科、メヒシバ属

(イネ科の栽培植物：イネ、コムギ、トウモロコシ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、畑の縁

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生)

特徴：数本の針金のような細かい花序の枝が斜め上に伸びる、小穂は粒状。

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：2枚 (小さくて目で見てもよくわからない)、離弁 (花びらが1枚ずつ散る)

花の時期：9—11月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：アキメヒシバとは、小穂が長くて先が尖るので区別できる。オヒシバは、花序 (花の集まり) の枝が平たくて、幅が広い。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)